

青少年育成 かすみがうら市民会議

vol.12

広報誌

青少年心身健全育成事業「ジュニア和太鼓教室」



ふれあい生涯学習フェア・かすみがうら祭にて発表



● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井賢治



皆様方には、日頃から青少年育成かすみがうら市民会議の活動にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

現在、青少年を取り巻く環境は、大きく変化し、SNSを通じたトラブルの増加や、闇バイトや凶悪犯罪の低年齢化が多く見受けられ、これまで以上に青少年問題について考えていかなければなりません。

本市民会議では、青少年を犯罪や有害情報から守る取り組みを講ずるとともに、最大の目的でもある「次世代を担う青少年の健全育成」を達成するために、市民の皆様方と関係各種団体のご協力をいただきながら様々な活動を展開しております。

今年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、様々な制限が緩和されました。これまで中止や制限のある中で行ってきた活動も以前の状態に戻りつつあります。

市民総ぐるみで青少年健全育成に取り組むため、皆様にご賛同いただきました会費は、青少年育成を考えるつどいを始め、ジュニア和太鼓教室（青少年心身健全育成事業）、かすみがうら市・ウイークエンド・コミュニティー・スクール事業、青少年相談員連絡協議会、高校生会、市内中学校及び義務教育学校立志行事などへの補助金交付、二十歳の集い（旧成人式）での記念品配付、広報事業などへ大切に活用させていただいております。

今後とも、市民の皆様方には「地域の親」「社会の目」として子どもたちを温かく見守っていただき、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



❖青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操と広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であるといえます。

こうした責務を果たすべく、市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議（以下、市民会議）」が結成されています。

❖市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するために各種事業の実施や関係団体の支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

❖市民会議の活動費

市民会議は、その活動にご賛同いただいた皆様からの会費によって運営されています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の展開や学校・関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

❖今年度(令和5年度)の事業

青少年育成を考えるつどい

青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）

青少年健全育成に関する広報活動

かすみがうら市・ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWC S）事業

親子つり大会・市子ども会育成連合会事業への協賛

二十歳の集い(旧成人式)での記念品配付及び式典準備費への助成

青少年相談員連絡協議会の巡回指導等の活動への助成

市リーダーズ高校生会への助成

中学校及び義務教育学校立志行事への助成

❖会員募集について

本会では、毎年会員を募集しております。本会にご賛同してくださる方には、会費を納入いただいております。【会費】一般会員：年額 200 円、賛助会員：年額 1 口 1,000 円（1 口以上）
会費の納入につきましては、毎年 6 月頃に区長・自治会長・常会長・班長の皆様を通してお願いしております。

会員加入にご協力をお願いします。

..... ~推進している運動をご紹介します~

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを始めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

「親が変われば、子どもも変わる運動」

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは親や大人の使命です。

私たち親や大人は、青少年問題の背景には親や大人の生き方や社会のあり方が深く関わっていることを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があるため、大人のマナーアップ運動としても実施しています。



令和5年度

「青少年育成を考えるつどい」

令和5年7月15日（土）あじさい館視聴覚室で、青少年健全育成に対する理解と関心を深めることを目的とした『青少年育成を考えるつどい』を市PTA連絡協議会との共催で実施しました。

第一部 少年の主張大会

第一部の「少年の主張大会」では、市内各中学校・義務教育学校の代表者6名が、日頃の生活の中で感じたことや考えていることを発表しました。

それぞれの主張文をご紹介します。

タイトル	学校名	名前
狭い生き方の「囚人」にならないで	霞ヶ浦中学校	古谷百々香
COLORFUL	千代田義務教育学校	大山 詩花
親の気持ちと子の気持ち	下稲吉中学校	松本 桜子
日々、反抗	霞ヶ浦中学校	山下 未結
人間と自然	千代田義務教育学校	藤崎かりん
「努力」は無駄なのか	下稲吉中学校	斎藤 翔鳥

(敬称略)

※令和4年度より、小中一貫教育の実施に伴い市内中学校は学年表記が7～9年生になっています。

狭い生き方の「囚人」にならないで



霞ヶ浦中学校9年
古谷百々香

LGBT。最近は当たり前になりつつあるこの言葉、みなさんは知っていますか？ 「L」はレズビアン。心の性が女性であり、女性を好きになること。「G」はゲイ。心の性が男性であり、男性を好きになること。「B」はバイセクシャル。男性、女性の両方とも好きになること。「T」はトランスジェンダー。心と体の性が一致しない人のことです。世界では、LGBTの広い認知から話題に上がることも多くなり、それまでの「ホモ」だ「オカマ」だなんだという差別的な発言も本格的に問題に上がり出し、注目を集めることも少なくありません。確かにLGBTが注目されたことにより、人生が変化した、救われた人だって世界には大勢いるはずですよ。しかし、私が気になっているのはLGBTの輪の中に入れていないけれど、男性、女性の枠にも自分の居場所を見つけていない人々のことです。

だって私がそうであるから。私が本格的に自分の性の違いを意識し出したのは、小学6年生のことです。この頃から私は自分のことを「僕」という一人称で呼んでいました。その頃は特になんとも思わずに言っていたのですが、もうすぐ中学生になり、自由な服装から制服というものに変化すると知った時から、「自分だけおかしいのか」と思うようになりました。低学年の頃から、スカートなどの可愛い服よりも、ズボンなどのカッコイイイメージを持たれる服を必ず着ていました。そのため、卒業が近づくにつれ、スカートを強制的に着なければならなくなるという焦燥感に駆られるようになっていました。私は、この頃にインターネットでLGBTについて知りました。どうしてもスカートを履きたくなかった私は、制服屋さんにスラックスを履きたいことについて話をしました。すると、「学校の許可を貰ったらいいよ。」

と言われました。それならばと、許可を貰うための方法を調べてみると、LGBTであるという証明が必要であることがわかりました。そこで自分は本当にLGBTとっていいの？ ただスカート嫌っているだけじゃないの？ と考えてしまい、行動を起こすことができませんでした。

こんな私のような本当の自分が分からなくなってしまう人が世界には数多く存在しています。この現状を私は、LGBTという言葉が生まれた後に派生語として誕生した、LGBTQ+。この「Q+」を当たり前知って貰うことにより解決していきたいのです。「Q」は、クエスチョニング。性別が定まっていない、あえて決めない、わからないを当たり前としている人のこと。そして、「+」は、LGBTQ以外の性を持つ人のことです。

今現在、LGBTの存在を知っている人は約9割。つまり、ほとんどの人々がこの言葉を耳にしている、少しは知っている、ということです。その中にLGBTQ+の人々は約10%。例えば、10人中1人。30人のクラスだと3人。日本人口だと約1200万人。身近なものに例えると少なく思えるかもしれませんが、日本全体を見ると多く思えますよね？ それだけ多くの人々が日本にはいるのです。もちろん、さらに範囲を広げ、世界を見ると、もっともっと多くの人々が存在することでしょう。しかし、Q+を知っている人は約1割。LGBTは分かっているけど、Q+は知らない。そんな人々がまだまだたくさんいることがわかります。

だからお願いします！ 私と一緒に知って下さい！ LGBTに助けられる人々が数多くいることを。その枠に囚われずに自分を出そうとしている人々がいることを。そして、影で心の中の自分を出せないで苦しんでいる人々が少ないわけがないことを。貴方が知ることで起こるほんの僅かな変化が今日、明日、あるいは何年後かもしれない。必ず実を結び、絶対に誰かにとっての救いの手となれることを！

<https://tokyorainbowpride.com>
<https://dentsu-ho.com>
<https://www.stat.go.jp>
<https://www.city.katori.lg.jp>

COLORFUL



千代田義務教育学校9年
大山 詩花

「女の子だから、赤いランドセルがいいよね。」

小学校に入る前の私に、家族の一人がそう言いました。しかし当時の私が好きだった色は青や紫、黒といった、赤とはかけはなれた色ばかり。

「なんで赤なの？ 私は別の色がいい！」

結局、そう言ったところで私のランドセルの色は変わりませんでした。その時が最初です。「女の子だから」「女の子なのに」という言葉に疑問を抱いたことは、その後、何度もありました。

例えば、「女の子なんだから座り方に気をつけて」や「女の子は料理ができないとね」などといった、私へのアドバイス。また、学校では、力仕事は男子、細かい仕事は女子がやるといったような振り分けがされていることが多く、言葉にされていないまでも、「女子はこういうものだから」と言われているように感じる場面もありました。

しかし、そういったことに違和感を感じながらも「女の子らしくしなければ」「目立ちたくない」と思う自分も出てきました。

そしてそのうち、かつてランドセルの色について「なんで赤なの？」と聞き返していた頃のように、反論しようとも思わなくなりました。

なぜなら私は「女の子だから」。

そんな時、本の中でシモーヌ・ド・ボーヴォワールという哲学者の言葉に出会いました。

「人は女に生まれるのではない、女になるのだ。」

これは、生まれつきの女などいない、みんな周りの期待によって「女性らしさ」を手に入れさせられるという意味でした。

この言葉に出会って私は、自分はどうなりたいのか、もう一度考えました。

私は、かわいいものもかっこいいものもどちらも好きです。だから、自信を持ってそれらを好きだといえる人になりたい、自分に正直でありたい、そう思った時、なりたい私は「女性らしい人間」というより、「自分らしい人間」だったのだと気付きました。

また、ボーヴォワールの言葉は男性に置き換えても言うことができるのではないかと思いました。もしかしたら「男の子だから」という言葉で同じように疑問を抱いていた人もいたのかもしれないと感じたのです。

最近、メディアなどでジェンダーレスという言葉をよく聞きます。しかし、その一方で「女性らしさ」「男性らしさ」を求める声も多く、そのイメージに合わせて生きてきた人もいます。

それは時代の中で形作られてきたものであって、必ずしもその声が「悪」であるとはいえません。しかし、すべての人の理想が同じであるともいえないはずで

す。女性だってかっこよくありたい人もいます。男性だってかわいくありたい人もいます。

みんなそれぞれの個性を持っていて、それらは大きな可能性が詰まった大切なものなのです。

だから、私達がすべきことは、性別での先入観ではなく、その人自身を見つめることです。これは、「女の子だから」「男の子だから」と言わないようにするといった私達の小さな意識でできることであって、誰かを批判したり、自分の理想を押しつけたりすることではありません。

世界には、現在約80億人が暮らしています。性別は二つでも「80億人80億色」。

たくさん色がつくる社会で、その色一つ一つを改めて見つめ直すことができれば、世界はもっと美しく見えるようになると思います。そんな世界のために、性別にとらわれずみんなの個性を大切に、私は生きていきたいです。

親の気持ちと子の気持ち



下稲吉中学校9年
松本 桜子

私は朝、テレビで流れているニュースを見てすごく驚きました。とても悲しいニュースでした。それは、子供が自分の親を殺してしまったというニュースでした。最初は「怖いことするなあ」「殺すなんてひどい」そんな風に思っていました。

しかし、なぜ親を殺すという悲しい決断をこの少女はしてしまったのか、という疑問が浮かびました。気になった私はその事件について調べてみることにしました。

調べた結果、この事件には教育虐待といわれているものが大きく関係していることが分かりました。

教育虐待とは、児童虐待の一種で、教育熱心すぎる親や教師などが過度な期待を子供に負わせ、思うとおりの結果が出ないと厳しく叱責してしまうことを指すそうです。

殺されてしまった親も、娘に殺されてつらかっただろうなとは思いますが、ですが、教育虐待に苦しみ続けた娘の気持ちを考えると、とても子供だけが悪いように思えませんでした。この少女は30歳だそうです。30という歳まで、親のいきすぎた教育を受け自分では何も決めさせてもらえなかった苦しみは、私には想像もつきません。本当に苦しかったから、もう耐えられなかったから、こんな悲しい決断をしたんだろうなと思いました。

この事件のように、苦しみ続けた結果、親を殺してし

もう子供が教育虐待によってうまれていきます。教育といきすぎた教育の境目はどこにあるのかというのは、とても難しい問題だと思います。

子供に幸せになってほしい、苦しい人生を歩ませたくない。そう思う親の心が子供に対するいきすぎた教育に繋がってしまうのではないかと思います。だからといって教育虐待という行為が許される訳ではありません。「子供の幸せな未来のために〇〇になってほしい。」という親の気持ちがいつのまにか子供のなりたいもの、進みたい道、夢を潰してしまっているのかもしれないと思いました。

私は、教育虐待を受けて苦しむ子供を減らしたいです。きっとその子達は声を上げることもできず、静かに耐えて苦しんでいるんだと思います。そう考えると、私までどんどん苦しくなってきます。

教育虐待を、私は親と子供の気持ちがぶつかり合うことなく、親の気持ちが一方的に子供にぶつかってしまった結果、起きているものではないかと思います。

なので私は、親が子供に気持ちを押しつけるだけでなく、子供の気持ちと向き合い、ぶつかり合うことで、教育虐待は、防げるのかもしれないと思いました。

では、教育虐待をなくすためには親と子供がそれぞれどのようなことに気をつければよいのでしょうか。互いに気持ちをぶつけ合うためには何が大切なのでしょう。私はそれぞれの立場でできることがきっとある、そう思います。

まず親のできることを。それは親の考える幸せが子供にとって本当に幸せなのかを、一度立ち止まって考えてみることで。子供が思う幸せはなんなのかを子供自身に聞くことが大切だと思います。

そして子供自身ができることもあると思います。それは自分に自信を持つこと、家庭以外に自分の居場所をつくることです。理想は子供も自分の気持ちや意思を伝えて向き合うことです。しかし伝えても聞いてくれないときや、向き合うことができない場合もあると思います。そんなときは、周りのことに目を向けて心に余裕を持ち続けてほしいです。

自分に自信を持つことと家庭以外に自分の居場所をつくることは、心の余裕に繋がると思います。心に余裕ができると、物事をより広い視点で見ることができるようになり、自分の立場やなにを苦しいと思っているのかを客観視することができるのではないのでしょうか。

教育虐待という問題を解決するには、どちらかだけががんばるのではなく、親も子もお互いを思い歩みよることが必要だと思います。

そのために親が子供の意見を個人として尊重し共に幸せな未来について考えること、そしてもし親が向き合ってくれない時には、子供は別の居場所をつくること、これが大事なことだと思います。

私の主張が教育虐待について考える一つのキッカケになって、苦しんでいる子供が救われていくような社会をつくりあげる助けになればいいなと思います。

日々、反抗



霞ヶ浦中学校9年
山下 未結

私は今、反抗期です。なので最近すぐ家族に対し反抗的になってしまいます。いつも私が悪いのに。直接謝ったり、感謝を伝えたり、いつもはできない家族への気持ちを今日はこの場を借りて伝えようと思います。

お父さんへ。いつもくだらないことで反抗しちゃってごめんなさい。毎日働いて

くれてありがとうございます。いつも私の好きなことをやらせてくれてありがとうございます。また、高校も「自分の行きたいところに行きな」と背中を押してくれてありがとうございます。志望校に受かるように勉強頑張ります。毎朝、見送りをしてくれてありがとうございます。毎日安心して登校できます。私は、お父さんと料理をすることが大好きです。最近は全然できていないけど、またあたふたしながらカレーを作りたいです。いつもありがとうございます。

お母さんへ。すぐ反抗しちゃってごめんなさい。いつもわがママをたくさん聞いてくれてありがとうございます。毎日、相談に乗ってくれてありがとうございます。辛い時があってもお母さんに話すことですっきりします。ご飯も毎日作ってくれてありがとうございます。お母さんが作るご飯が一番美味しいです。くだらない話も毎日聞いてくれてありがとうございます。いつも部活の応援をしてくれたり、練習の場をつくってくれたり、支えてくれてありがとうございます。最後の大会、悔いの残らないように全力で頑張ります。いつもありがとうございます。

お兄ちゃんへ。いつも怒っちゃってごめんなさい。いつも勉強教えてくれてありがとうございます。最近点数が上がった気がするよ。受験が終わったら今度はゲームについて教えてください。夜遅い時でも、習い事の送迎をしてくれてありがとうございます。明るく、いつも笑わせてくれてありがとうございます。喧嘩ばかりだけど、嫌なことがあった時に一番に心配をして、怒ってくれてありがとうございます。自慢のお兄ちゃんです。いつもありがとうございます。

愛する猫へ。いつも寝ているのに邪魔しちゃってごめんなさい。普段は私に対してすごく当たりが強いけど、泣いている時や怒っている時にそっとそばに来てくれてありがとうございます。本当に大好きです。

と直接伝えることができず、隠れてこの文を書いている私ですが、だからこそ主張したいことがあります。それは、「感謝は言える時に言う」ということです。ニュースを見ていると、たくさんの家族に対する悲しいものを見ます。自然災害、交通事故、病気など、誰が、いつ、どうなるか誰にもわかりません。なので感謝は言える時に言うべきだと思います。自分を産んでくれたこと。ここまで育ててくれたこと。たくさんの経験をさせてもらったこと。全てが自分を作っているものだと思います。

何気ない日常でも感謝を伝える場面はたくさんあります。些細なことでも伝えることによって、自分も家族も幸せになると思います。

私は家族が大好きです。いつも一緒に生活しているし、家族がいない生活なんて考えられません。しかし、何をするにも当たり前と思いきり込んでしまっているからこそ感謝の気持ちが薄れてきてしまっていると感じます。これからは、自分自身の行動を見直して直接感謝を伝えられるように頑張ります。皆さんもこの作品を通して、言わなくても通じ合えていると思っている言葉をあえて言葉にして、「ごめんなさい」や「ありがとう」から伝えてみるのはどうでしょうか？

人間と自然



千代田義務教育学校9年
藤崎かりん

休みの日、楽しみにしていた山登りに出掛けました。気持ちよく歩いていると、ゴミが散乱した斜面を目にします。

私は幼い頃から、よく家の近くにある小さな山に登っています。初めて会う人でも、大人でも子供でも、山では皆がありのままの自分になれ、心をうちとけ合

うことができます。なぜそのようになれるのか、それは、自然の力があるからではないでしょうか。山の中にいると、人間は自然よりもはるかに小さい存在だということを実感します。標高は400メートルにも満たない小さな山です。それでも、とても自然が豊かで、たくさんの生き物が暮らしています。私はこの山が、この地域が大好きです。夏にはホタルが多く飛び交い、川には、サワガニやたくさんの生き物がいます。おいしい果物が年中実り、心が温かい人ばかりです。こんなすばらしい地域が他にあるのでしょうか。これもすべて、自然が豊かで、自然に近い環境にいるからだ、私は思います。そして、ここに住むほとんどの人が山や自然に誇りを持ち、山を愛しています。

しかし、その小さな人間の中には、自然への感謝を忘れている人もいるようなのです。その山に、あなたが初めて登ったとき、きっと「楽しい」や「美しい」の次に感じる場合があります。それは、「ゴミが多い」ということです。山に入っていたる所で目にするのは、「ゴミを捨てるな!」と書かれた立札とそのわきに捨てられた罪悪感のカケラもないゴミの山。冷蔵庫や電子レンジ、ストーブ、ベッドなどの大きなゴミから、カンや家庭で出るゴミの袋など小さなゴミまで、斜面に投げ捨てられ、そのままにされています。

私の小学校では地域の自然と密接に関わる授業が多くあり、その中で「山へのゴミ捨てを減らすためのポスター

を作り、山の掲示板に貼る」ということをしました。その時、担任だった先生にこんなことを教わりました。「ゴミを捨てていく人たちには『捨てるな』の文字は響かない。でも、『山への愛』を描くと、心が痛み、罪悪感を覚えるんだよ。」と。それは実話で「この地域が大好きです」と描かれたポスターによって山のゴミが減少したそうなのです。しかし、そううまくはいきませんでした。ポスターを貼ったからといって山のゴミが少なくなったとは感じません。それでも、そこであきらめてしまっ

てはいけません。私は、ゴミを捨てる人たちへの怒りを抑えられません。ゴミだらけの山を見ると、自然に感謝をしていた昔よりも、人間ははるかに愚かになってしまったと、とても悲しくなります。しかし、私が見てきたことは氷山の一角にすぎません。日本中、世界中では、もっと深刻な状況になっているのです。私たちが変えるのです。

私は郷土への愛を深めることが、一番大切だと思います。愛は行動を起こす第一歩になります。そのために学校の授業などで自分の住んでいる地域の良さについて調べたり、地域の人との関わりを大切にしたりすべきだと思います。また、都市部で暮らす子供たちにも、自然とふれ合う機会を作り、小さな頃から自然を大切にすることを育むべきです。

「努力」は無駄なのか



下稻吉中学校9年
斎藤 翔鳥

世の中には、個人ではどうしても無理なことが山のようにあります。しかし、どうしても成しとげたいこと、手に入れたいものがある時は、最後までがんばろうという意志をつらぬいてみてください。そうすれば、たとえ目標を達成できなくても、自分のことを確かに成長させてくれると思いま

す。ぼくがこういった考え方をするようになったのは、ある出来事がきっかけでした。

ぼくは、昔からあまり勉強が得意ではなく、7年生後半のときにはほとんど勉強が追いついていませんでした。なのでどんどん成績は落ちていき、ぼく自身の心も落ちぶれていきました。大げさかもしれませんが、あのころのぼくは「もうみんなに二度と追いつけない。」だとか「何やっても無駄なんだから何もしなくていいや」だとか、そういうことばかりを自分の中でつぶやいていました。

そんな状態でダラダラと7年生の間を過ごし、気付けば8年生になるまで続いていました。しかし、ある二つのキッカケのおかげで、ぼくは「努力の大切さ、を知ることになりました。

一つ目は、「両親からの言葉」です。あるとき、両親と話し合いをしたときに言ってもらった言葉がぼくを動かしてくれました。お母さんからは「いちいち考えすぎない」こと、そして「あきらめない姿が一番カッコいい」ことを伝えてもらいました。そしてお父さんからは「失敗したことからちゃんと学ぶこと」を覚えてもらいました。この2人の言葉をきっかけに、とにかくあきらめずにまずはやってみようと思うことができました。

二つ目は、「嫌いなものを好きになってみる」ことです。ぼくは絵を描くのが好きなのですが、絵を描くときは何時間だろうと描き続けられます。この「好きな物」に対する集中力を勉強でも引き出せないかなと思い、勉強を好きになるために授業を全力で楽しんでみました。すると、先生たちの努力もあり、だんだん勉強が好きになっていきました。特に理科と数学は担当の先生のおかげで一番好きな教科です。嫌いだった勉強を全力で楽しみ好きになることで勉強に対する集中力も上がり、より目標に対して強く進むことができるようになりました。

その後、定期テストがありました。その時は目標には一步届きませんでした。もう前のように暗い気持ちにはなりません。解けなかった問題にもう一度向き合い、その後もがんばり続けました。おかげで点数は上がり、前の目標をこえることができました。

この出来事から、ぼくは努力することの大切さを学びました。一度は達成できなかった目標点数でしたが、その後あきらめずに努力したことでその点数をこえることができたからです。

どれだけ努力しても達成できないことはいくらかもあります。それは努力が足りないからだったり、運が悪いからだったりします。でも、必死に積み上げた努力は絶対に消えないし無駄にもなりません。人生の中で積み上げた経験は必ずどこかで役に立ちます。もしかしたら、次の成功の助けになるかもしれません。そのことをぼくは学びました。中には、「経験なんて頭に残るだけで、役に立たないだろう？」という考えを持っている人もいます。確かにそうです。経験には当然役に立つ時と立たない時があります。でも、一度経験したことは記憶喪失にでもならないと消えることはありません。なら、無駄だと決めつけるよりも、うまく有効活用するほうがいいのではないのでしょうか。

あきらめないで努力をする。成功するかどうかは分かりませんが、努力した経験は決して消えません。もし、その努力が実を結ばなかったとしても、努力した経験は別のところで活かすことができるんです。だからあきらめないで努力できるような「何か」を見つけてほしい。それが新たな成長につながります。この作文が選択に困っているだれかの背中を押してあげられたら、ぼくもううれしいです。みなさんもぜひ、自分だけのゆずれない「何か」を見つけてみてください。

青少年育成を考えるつどい

第二部 講演会

『部活動の地域移行について』

講師 筑波大学 特任助教
林田 敏裕 先生



『少年の主張茨城県大会主張文を募集しました』

公益社団法人茨城県青少年育成協会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催による「令和5年度少年の主張文募集」に、市内の中学校・義務教育学校から推薦のあった6名の主張文を提出いたしました。

研修会等へ参加しました

○土浦地区青少年育成市民会議連絡会 研修集会

令和5年12月4日(月) つくば市役所
講演：「心の成長とSNSの危険性、高リスク社会」
講師：若年者社会参加支援普及協会アストリンク
理事長 浅井和幸氏

○青少年健全育成茨城県推進大会

令和6年2月28日(水) アダストリアみとアリーナ
講演：「リーゼント刑事が語る！少年犯罪の裏側にある問題とその予防策とは」
講師：元徳島県警 捜査一課警部 リーゼント刑事 秋山博康氏



かすみがうら市 青少年相談員連絡協議会

青少年を取り巻く社会環境を健全化し、青少年の健全育成と非行防止に資することを目的として様々な活動を行っています。



①巡回活動

徒歩や青色防犯パトロール車で、毎月2回程度、市内の施設や店舗を中心に巡回しています。市内の公園や神立駅周辺の防犯パトロールも行っています。

②あいさつ・声かけ運動

生徒が登校する時間にあわせ、市内の中学校・義務教育学校であいさつと声かけを実施しています。

③啓発活動

神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を語りかける活動をしています。

④店舗への訪問活動

コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。なお、市内では現在37店舗にご協力いただいております。

⑤視察研修会

青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、今年度は11月14日(火)に茨城県にある水府学院を訪問し、施設内の見学に加え、学院での生活、社会復帰への支援等を説明していただきました。また、水府学院は全国に2箇所しかない「特定生活指導(薬物非行防止指導)重点指導施設」となる少年院であり、薬物指導の話聞くことができ、今後の活動の参考にすることができました。

⑥県青少年相談員連絡協議会第5ブロック研修会

土浦市・石岡市・つくば市・かすみがうら市の青少年相談員相互の連携を深め、広域的な青少年問題に対応できる体制づくりのため、研修会が実施されています。



第5ブロック研修会



視察研修会



あいさつ・声かけ運動



青少年心身健全育成事業 ジュニア和太鼓教室

市内の小中学校及び義務教育学校の3年生から9年生を対象に、市の体育センターで和太鼓教室を開催しました。21名の参加者が、あゆみ太鼓の方々の指導のもとバチの持ち方や構え方などの基本的な練習から始め、6回の教室で「彩～Irodori」という曲が演奏できるようになりました。

最初のうちはみんな悪戦苦闘していましたが、毎週練習を重ねて上手に演奏できるようになり、教室最終日には、保護者の皆さんの前で堂々とした姿で演奏を披露しました。また、ふれあい生涯学習フェア・かすみがうら祭に参加し、多くの人々に子供達の素晴らしい演奏を見ていただくことが出来ました。



ジュニア和太鼓教室の練習風景

市子ども会育成連合会事業

親子つり大会



令和5年5月27日(土)、上佐谷地区の雪入川にて「親子つり大会」が行われました。62組170名の参加者が早朝からニジマス釣りに奮闘し、ニジマスが釣れると大きな歓声を上げていました。天候にも恵まれ、家族の笑顔あふれる和やかな1日となりました。

今年度も当事業に青少年育成かすみがうら市民会議から経費の一部を助成しています。

高校生会の活動

今年度の高校生会は16名となり、定例会及び近隣の高校生会との交流事業のほかに、学習支援ボランティアのお手伝いや市子ども会のイベント協力、あじさい館ホールのクリスマスツリー装飾など、様々なイベントに参加し活動してきました。

「できることを、できる時に、できる人が」をモットーに、今の自分たちにできる活動を積み重ねています。

新たな高校生会員も随時募集しています。ご興味のある方は生涯学習課までお問合せください。



二十歳の集い事業 (旧成人式)

令和6年1月7日(日)千代田講堂にて、令和6年かすみがうら市二十歳の集いが行われました。今年度も2部制での開催とし実施されました。320名が出席し、懐かしい友との再会を喜び、新たな人生の一步を踏み出しました。二十歳の集い事業には青少年育成かすみがうら市民会議も協賛し、参加者に記念品を贈りました。



KwCS

かすみがうら市 ウィークエンド・コミュニティ・スクール 事業

市内に住む児童・生徒を対象に、心豊かな人間性と郷土を愛する心を育むことを目的に、学校や家庭などの日常生活では経験できないような体験学習を関係機関、団体、組織が一体となって事業を実施しています。

今年度は親子つり大会、かすみっ子まつり(ごじゃっぺかるた大会・工作)、いばらきっ子郷土検定県大会、親子オリエンテーリング等の事業補助を実施しました。



「親子つり大会」

GET!



「かすみっ子まつり」
ごじゃっぺかるた大会

「かすみっ子まつり」
ソーラー充電
グラスライト工作



「いばらきっ子
郷土検定県大会」



NICE



よたいへん
まじりました

青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会事務局生涯学習課
〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷3719-1
TEL.029-897-0564 FAX.029-898-2965

発行日: 令和6年3月15日